

ITを利用した業務効率を考える

はじめに

先月に引き続き今月も IT を利用した業務効率化について解説します。

今回は建設業について IT を利用した業務効率化と損益管理の導入について解説します。

事例 建設業の業務効率化

主に個人の注文住宅を請け負うことをメインとした建設会社です。今回の事例では、内装業など様々な建設関連業でも応用できる手法です。

この会社はいわゆるどんぶり勘定の経営でした。工事台帳はあるものの、必ずしも正しく記載されていませんでした。

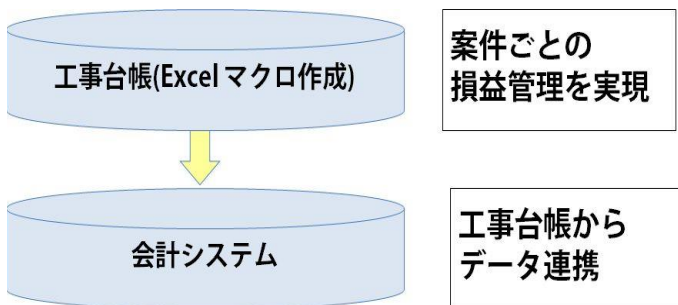
社長も工事台帳が正しく記載されていないことを認識しています。ではなぜ、工事台帳を正しく記載しないのかを質問したところ、工事台帳を正しく記入する従業員も時間もないとのこと。これでは、どの受注案件でどのくらい儲かったのか、また損失を出したのかが分かりません。まさにどんぶり勘定の経営です。工事台帳は会計帳簿からそれらしき支出を適当に繋ぎ合わせたものです。つまり、工事台帳が必ずしも正確に作成されてなかったのです。

そこで工事台帳を Excel で作成し、工事台帳のデータを会計ソフトにデータ連動で入力することを図 1 の通り提案しました。

工事台帳を正確に作成し、工事案件ごとの損益を見える化することをまずは提案しました。これは Excel でマクロプログラムを提供しました。次に、会計システムへのデータ連携を提案しました。これにより、会計システムへの入力作業時間を大幅に削減することに成功しました。会計システムへの入力作業時間を工事台帳作成時間にあてたのです。

結果として、会計の正確性と工事台帳の正確性をともに確保し、実現させました。

図 1 今回のプロジェクト概要



工事台帳を正確に作成する

担当者は工事原価データに材料費、労務費、外注費を入力します。入力は極力シンプルにします。日々の入力はこちらだけです(図 2)。

図 2 工事原価データ

年月日	出票番号	勘定科目	金額	摘要	工事原価項目	工事番号	工事名	材料費	労務費	外注費	その他経費
2014/1/10	1932	仕入高	100,000	H40木材	材料費	1	A工事	100,000	0	0	0
2014/1/11	1932	仕入高	131,250	H40木材	材料費	2	B工事	131,250	0	0	0
2014/1/12	1932	仕入高	210,000	H40木材	材料費	3	C工事	210,000	0	0	0
2014/1/13	1932	仕入高	104,000	H40木材	材料費	4	D工事	104,000	0	0	0
2014/1/14	1932	仕入高	107,500	H40木材	材料費	5	E工事	107,500	0	0	0
2014/1/15	1932	仕入高	210,000	H40木材	材料費	6	F工事	210,000	0	0	0
2014/1/16	1932	仕入高	48,000	H40木材	材料費	7	G工事	48,000	0	0	0
2014/1/17	1932	仕入高	40,000	H40木材	材料費	8	F工事	40,000	0	0	0
2014/1/18	1932	仕入高	72,000	B5007/77内装	材料費	5	E工事	72,000	0	0	0

工事台帳の完成形は図 3 です。

図 3 工事別管理表

工事No.		1	工事名	A工事			
発注者			相川様	予算原価	25,000,000		
請負金額			25,000,000	実際原価	1,053,290		
契約日			2013年9月25日	目標利益(率)	0 / 0.0%		
引渡日				現在利益(率)	23,946,710 / 95.8%		
工期			2014年2月2日 ~				

No.	年月日	出票番号	勘定科目	摘要	工事原価			
					材料費	労務費	外注費	その他経費
1	2014/1/1	1932	仕入高	A200アパニス	300,000	0	0	0
2	2014/1/1	1933	仕入高	A200アパニス	75,000	0	0	0
3	2014/1/1	1933	仕入高	A200アパニス	65,000	0	0	0
4	2014/1/5	1943	仕入高	H1002北海道事	328,000	0	0	0
5	2014/1/6	1947	仕入高	H1002北海道事	22,500	0	0	0
6	2014/1/7	1953	仕入高	I201イーグル	24,000	0	0	0
7	2014/1/7	1953	仕入高	I201イーグル	40,000	0	0	0

社長は Excel のボタン一つで、予定原価と実際原価、さらに請負金額まで1枚のシートで閲覧することが可能となりました。またすべての案件について一覧にすることもできるように設定しました。

会計システムへのデータ連携

工事原価データに仕入先や材料費・労務費・外注費を入力しているの、データ連携で取り込むだけです。最近の会計システムは、データの受け入れ(インポート)をどのように設定すれば良いのかマニュアルに書いてあります。弊社はマクロプログラムを提供して会計システムへのデータ連携もボタン一つでできるように提供しました。

この会社さんはコンサルティングのみで、既存税理士の関係上、継続的なお付き合いとはならなかったのですが、社長は満足されたようです。